

# お知らせ

日時 場所 問い合わせ 申し込み  
黒埼町役場の電話番号は7-3101です。

## 融資します

労働組合のない職場に働く人々への融資  
新潟県労働者信用基金協会の保証により、労働者であってかつ次のような人が労働金庫から融資が受けられます。

- 勤務先に労働組合がない人
- 勤務先に労働組合があっても、その労働組合が労働金庫に加入されていない人
- 勤務先の労働組合が、労働金庫に加入していても管理職のため労働金庫を利用できない人

利用できる融資の種類は次の通りです(57.4.12現在)

種類	用途	融資額	期間	金利
住宅ローン	新築・増改築 土家屋購入	2,000万円以内	10年～25年以内	年7.80% ～8.40%
暮らしのローン(不動産担保)	物産購入・教育・冠婚葬祭 レジャー資金等	1,000万円以内	10年～25年以内	年8.30% ～9.05%
暮らしのローン(無担保)	物産購入・教育・冠婚葬祭 レジャー資金等	100万円以内	5年以内	年10.9%

この融資にはすべて財団法人新潟県労働者信用基金協会の保証をつけさせていただきます。  
※詳しいことは、新潟県労働者信用基金協会 ☎0252(28)3411へお問い合わせください

## 中元用事業資金

今年も中元の時期を迎えました。この時期には例年買掛金、支払手形および従業員のボーナスなどのお支払いが重なり、運転資金が特に必要となります。こうした季節資金が必要な場合は、お早めにご相談ください。

融資限度 1,800万円以内  
融資期間 5年以内  
利率 年8.2%  
返済方法 月賦または一時払い  
保証人 1名以上

現在、ご利用いただいているかたでも重複してお申込みができます。なお、この他店舗、工場、機械、その他設備に必要な資金も取扱っています。  
国民金融公庫新潟支店 ☎0252-28-2151(内線48)

## おきがるに 交通事故の無料相談

交通事故の相談はご遠慮なくどうぞ。日本損害保険協会新潟自動車保険請求相談センターでは、専門の相談員が親身になって相談に応じます。なお、相談は無料です。

☎平日午前9時30分～午後4時30分  
土曜午前9時30分～正午(日曜日は休み)  
弁護士相談日＝毎週水曜日午後1時～4時

■(社)日本損害保険協会  
新潟自動車保険請求センター  
新潟市本町7番町1082 興亜火災新潟支店ビル5階  
☎0252-25-1851(または2225) 電話相談もあります。

## 新潟県警から 警察官募集

新潟県警察では、明春4月1日採用の高校、短大卒警察官Bの採用試験を、次のとおり行います。

▷採用予定人員……70人  
▷受付……7月14日(水)～9月11日(土)  
▷第一次試験……9月26日(日)新潟南高校  
▷受験資格……昭和30年4月2日から昭和40年4月1日までに生まれた男子で、学校教育法による高等学校または短期大学を卒業した人、または昭和58年3月31日までに卒業見込みの人。なお、警察官A(大学卒)関係は現在(8月16日まで)受付中です。

▷問い合わせ……詳細は、新潟西警察署(0252-60-5151)か黒埼幹部派出所(7-2106)またはよりの派出所へお問い合わせください。

## 「行方不明の人を捜す無料相談所」開設

県警では、次により行方不明の人を捜す無料相談所を開きますので、お気軽にご利用ください。

- ◆巡回相談所(9時～17時)  
8月3日(火) 新発田警察署(☎2-5151)  
8月4日(水) 三条警察署(☎2-1331)  
8月5日(木) 長岡警察署(☎32-2121)  
8月6日(金) 上越北警察署(☎43-3121)
- ◆常設相談所(平日9時～17時・土曜日9時～12時30分)  
上記相談所開設日を除く 県警本部鑑識課(☎28-2121)  
8月1日～8月31日まで(新潟中央署4階)(内線510～514)

## 芸術祭文芸作品を募集

新潟県では県民文芸の振興を図るため、芸術祭文芸作品を募集していますので、ドンドン応募してください。

○種目 応募資格

- 小説 (一般) { 400字詰原稿用紙50枚以内 }  
(高校) { 同 20枚以内 }
- 短歌 (一般・高校) 一人新作5首を一編(つながりがなくともよい)として審査する。 ●詩(一般・高校)
- 俳句 (一般・高校) 短歌と同様 400字詰原稿用紙
- 川柳 (一般・高校) 短歌と同様 4枚以内

※課題は自由

○締切り 57年10月9日(土)  
○あて先 〒951 新潟県教育文化行政課とし、封筒表面に「県芸術祭文芸作品応募原稿」と朱記する  
○詳細は、教育文化行政課 ☎0252-23-5511(内線3675)へ

夏の交通事故防止運動 7月21日～8月20日

## 保健衛生だより

8月の行事  
※乳児検診(3カ月)  
8月10日 受付時間＝午後1時～1時20分  
対象＝57年4月生まれと5月生まれの人  
※3歳児検診  
8月17日 受付時間＝午後1時～1時20分  
対象＝54年7月生まれと8月生まれの人  
※母親学級  
8月30日 受付時間＝午前9時～9時15分  
携行品＝母子手帳、筆記用具、歯ぶらし、印鑑、風呂敷  
主食(パンかご飯) 副食は用意します。  
受講料＝250円

※9月の行事予定  
9月14日 乳児検診  
9月21日 1歳6カ月児検診  
9月29日 母親学級



(6月11日入札)

工事名	工事費	完了予定日	工事業者
板井小学校 プール塗装工事	79 (万円)	6月19日	長谷川 塗装看板店
町道興野3号線 側溝修繕工事	36	7月10日	(株) 笠井組
町道大野16号線 歩道工事	310	9月18日	(有) 江木組
町道大野裏堤防線 歩道工事	1,190	11月7日	(株) 樋口組
町道金巻線 側溝修繕工事	325	9月3日	ソイル工業(株)
町道新田町仲町線 側溝修繕工事	150	7月30日	(株) 笠井組
黒鳥排水路改修工事	220	8月19日	(株) 吉井組

## 成人式は8月15日体育館

今年も成人式は8月15日(日)、総合体育館で行われます。案内状を発送しましたが、転入されたかたや帰省されているかたも出席できます。



「子守り学級」と落第  
明治の終りごろ、町は一般に不景気のため生活に苦しむ者が多かった。自分の体を動かして働かなければ、収入がほとんどなかった時代である。町の人の職業も今のように多種でなく、商家もあつたが職人や日雇いの労働者が多かった。

〔注〕労働者といっても当時は手間取りや、人足と呼ばれる人たちである。

労働者といっても現代の会社や工場に働く人たちのように労働基準法で保障されている労働者ではない。安定性のまったくない、一日いくらかの賃金を得て生計を立てていたのである。ところが、このように収入が少なく生活も豊かでない家庭に五人も六人もの子供がぞろぞろしていたものだ。

当時まだ子供を生まないための避妊の知識や方法なども研究



されていなかったため、生まれたくないのに子供ができたのである。いよいよどうしようもなくなると、次の子ができないようにと願いをこめて「留子」「留次」や「末子」などという名前をつけた風習さえあつた。

また、兄弟が多いということも子供たちにとっても大きな負担であつた。兄や姉たちは学校から帰ると、弟や妹の子守りから日課であつた。ばせられて(背負わされて)はじめのうちは軽いのだが、二、三時間とたつとだんだん重くなり、背負い帯が肩に食い込み泣きたいような思いをしたものだ。

一方、親たちは子供が三、四年生になると、よその家へ子守りに出して家計を助けさせようとした。「子守り学級」といって、生徒が弟や妹を背負ったまま教室で授業を受けたのもこのころである。

〔注〕「大野町の今昔」を参照されたい。

このような状態だからそのころの子供たちは、よほどの意志がない限り、おちおち勉強もしていられなかった。

また、当時の親は生活に追われていたから、今の「教育ママ」のように、子供の勉強の能率や教育方法など考える余裕はなかった。

このころの小学校に「落第」という制度があつた。落第というのは原級据え置きということである。ある家庭では、三年と四年の子がいたが、四年の子が落第して、翌年は兄弟連れで、同じ教室に席を並べている姿も見られたという。当時はこのような例が多く、兄より弟が先に学校を卒業することも多かったという。

毎年卒業の二、三日前になると、小学校の小さいさんが学校から手紙を持って落第する子の家々を回った。余り成績のよくない胸に覚えのある子供たちはおれんちへ来るんじゃないかと心配でヒヤヒヤしながら、小さいさんの後について一緒に町を回ったそうである。

心配ごと相談の利用を 毎週土曜午後1時 役場2階